
リリカルなのは・銀の狐

ローラン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

リリカルなのは・銀の狐

【Nコード】

N 6 6 3 7 X

【作者名】

ローラン

【あらすじ】

管理世界アルティマスでクーデターが一人の軍人によって起きた。管理局はクーデターを起こした軍を制圧しようとする…なのは達は真実を見てどう捉え、どう行動していくか…リリカルなのは…始まります

オリキャラ（前書き）

更新が不定期ですがよろしくお願いします

オリキャラ

名前：ロイ・エルヴィン

年齢：22才

デバイス：フリーデン

白銀のリヴォルヴァーでバレルがブルバレルや回転部がトリガー部の前に有るなど色々とカスタマイズしてある

階級：陸軍元帥

二つ名：銀の狐シルバーフォックス

管理世界アルティアスの陸軍元帥でクーデターを起こし、政府をつぶした男で、軍人としての誇りと騎士道を大事にする。一応は主人公容姿：銀髪長髪で何時もカイザー式軍服と軍帽と防塵ゴーグルを身につけている

名前：リンシア・ラインハルト

年齢：17

デバイス：メツサラ

上下二連式銃（猟銃）型でスコープを付けており、ある程度の距離なら狙撃が可能

容姿：金髪のセミロングでつり目

階級：陸軍准尉

エルヴィンの副官で、義理の妹。かなり頭が切れ、エルヴィンの右腕的ポジション。性格は気が強く、ツンデレ

名前：ルーデル・ハンスラル

年齢：20

デバイス：スツーカー

威力を上げるために、ムチャクチャな改造をしたライフル。あまりの改良と鬼畜的な威力のせいで彼にしか扱えない

容姿：茶髪の短髪で軍帽をいつも深く被っている

階級：空軍大佐

二つ名：爆撃王

無茶な突撃とワーカホリックな軍人で、かなりの戦果をあげるが、危ない橋をよく渡るので、エルヴィンの頭を悩ませる人物

名前：エリアル・ガーデルマン

年齢：20

デバイス：オートラル

セミオートライフル型デバイスで特に何かに特化している訳ではないが、特に悪い所も無い、無難なデバイス

容姿：赤髪のセミロングで、糸目で眼鏡をかけている

階級：空軍軍曹

二つ名：爆撃王のストッパー・鉄人アインマン

ルーデルが唯一逆らえない人物で、無茶な突撃でも帰ってくることから、鉄人と二つ名が付いた。性格は温厚だが怒らせると恐ろしく恐い。男装の麗人でリンシアと仲がいい

名前：キール・リュツチェンス

年齢：21

デバイス：オイゲン

SAAに似たりヴォルヴァーで、威力よりも命中力に特化している

階級：海軍中将

二つ名：海の霸王シーオブ・ザ・カイザー

容姿：赤髪の短髪でカイザーの軍服をいつも着ている

ロイの盟友でXV級艦船“ビスマルク”の艦長。正しいことであれば、たとえ上官であろうと訴えるなど部下達に慕われる性格で、軍人としての名誉と誇りを大事にする

オリキャラ（後書き）

はじりました。主人公の元ネタは独の軍人です。できる限り更新しますので、よろしくお願いします

ワルキューレ作戦（前書き）

はじまりました。今回はなのはキャラは出ませんが、次からはなのはキャラを出します。

ワルキューレ作戦

管理世界でのクーデター…このクーデターは管理局を揺るがす大事件へと発展していった

???「私達軍人は国民を守るために戦っている…だが国民を迫害する政府など守る意味があるのか？否…国民を阻害する国など国に非ず…私達はこの国を救う為にここで立ち上がる！私達に賛同する者は武器を取れ…そして愛するものの為に戦え…」

一人の軍服の男が演説をすると他の軍服の者達は一斉に武器を取り、掲げ上げた

???「失礼します。報告です、ロイ・エルヴィン元帥」

軍服の少女は敬礼をすると、テントの中に入っていた

ロイ「…なんだ…？リンシア？」

軍服の男が少女の方に目を向けると聞いた

リンシア「第十二機甲師団、ロイエンタール」が政府軍を七割方殲滅。でもまだ抵抗しているわよ」

ロイ「そうか…宇宙はうみはどうだ？」

リンシア「キール中将達がつくに制圧しているわよ！あと制空権はルーデル大佐達が掌握しているわよ！」

ロイ「そうか…」

ロイは目を伏せ、椅子にもたれかかった

リンシア「どうしたのよ？」

ロイ「いや…クーデターを起こした瞬間に首相達政府高官が尻尾を巻いて逃げ出すとは思わなかった…何のために私達は命を懸けていたのだから…」

リンシア「バツカじゃないの！あんた言っていたじゃない！国民の為だと！」

ロイ「…そうだな…ありがとう…リンシア」

リンシア「い…良いわよ別に…／／／」

兵士「元帥！首相官邸を制圧！政府軍は全て壊滅しました！」

ロイ「了解だ…あとは厄介な組織が残っているな…」

兵士「厄介な組織とは？」

ロイ「管理局だ。首相と管理局の高官は親密な関係だからな…きつと大部隊を引き連れて、私達を蹴散らしに来るな…」

兵士「どうするつもりですか？」

ロイ「決まっている…返り討ちにするのみだ…」

リンシア「そのあんた！この事を全兵に伝えなさい！」

兵士「はっはい！」

兵士は慌てて通信機を握り、通信を行った

ロイ「とりあえずは政府軍の捕虜たちを説得するぞ」

リンシア「わかったわ。あんたの指揮なら管理局なんか目じゃないよね？」

ロイ「敵を侮るものではない。如何なる場合も最悪な事態を考えておくものだぞ」

リンシア「あんたね…今は政府軍に勝って嬉しいのに水をさす訳？」

ロイ「浮かれすぎるのもよくないからな」

リンシア「あんたね…」

ロイ「だが。勝どきをあげるのも良いことだ。今は騒ぎそしてしっかりと休んで管理局を蹴散らすぞ」

リンシア「そうね。じゃあいくわよ、兄さん」

ロイ「ああ…」

二人は微笑して、テントから出た

ワルキューレ作戦（後書き）

ワルキューレ作戦は実際にあった作戦（失敗したが）です。なのは達はどう関係していくか、楽しみにしていってください。

武装戦線（前書き）

第二話です。新しいナンバーズを出そうと思いますが、どんなのが良いと思いますか？

武装戦線

管理局XV級艦船クラウディア

???「高町なのは一等空尉」

???「フェイト・T・ハラオン執務官」

???「八神はやて二佐」

なのは・フェイト・はやて「只今到着しました!」

???「よく来てくれた。三人共」

なのは「クロノくん、一応話は大体聞いているけど」

フェイト「情報って本当なの？」

はやて「先行していた管理局の魔導師団が壊滅したって」

クロノ「冗談だったら良かったが、本当だ」

はやて「そないな事があるんかいな？管理局の精鋭隊やったんやろ？」

クロノ「ああ…だから僕達に白羽の矢が立ったという訳なんだ」

なのは「そうだったんだ…あれ？私達の他には？」

クロノ「シグナム達、守護騎士も一緒だが、別任務があるから後から追いかけてくるはずだよ」

フェイト「そうなんだ…ねえ、作戦的にはどうするの？」

クロノ「とりあえず三人をアルティアスに転送して、展開する管理局の部隊と合流して事を進めて欲しい」

はやて「なんやアルティアスまで送ってくれないんや」

クロノ「送りたいのは山々だがアルティアスの海軍の反撃が凄まじくて近くまで行けないんだ」

はやて「せやったんや…ごめんなクロノくん」

クロノ「いや気にしなくていい」

なのは「じゃあ準備をしてくるね」

クロノ「三人共頼むぞ」

フェイト「うん」

フェイト達は微笑して、準備を始めた

兵士「報告致します！第二鉄甲師団、ガルム」と第七兵団、ガイナイグが管理局の魔導師団を殲滅！残りの管理局の部隊は退いていききました！」

ロイ「報告ご苦労…引き続き警戒態勢を崩すな…」

兵士「ハッ！」

兵士は敬礼をするとテントから出て行った

リンシア「管理局はどんな手で出てくると思うの？」

ロイ「物量作戦に出てくると思う…だが鉄甲師団は管理局の並の魔導師の攻撃では傷すらつかないし、ルーデル達空爆戦団と空戦部隊が管理局の重要拠点を攻撃すら予定だ…」

リンシア「流石ね。ところであの変態科学者の娘達はどこに居るの？」

ロイ「別任務にあってもらっている…もう少ししたら帰ってくるはずだ」

リンシア「信用できるの？元々管理局用に作られたのよ？」

ロイ「一応な…もし変な気を起こしたら、容赦なく倒すと言ってある。それなりと勝算がなければ襲ってはこない筈だ」

リンシア「そう…それなら良いけど…別にあんたが心配とかじゃないくて、軍の指揮が落ちるのがイヤなだけだからね／＼」

ロイ「わかっている…さて…この戦いはどころぶかな…」

ロイは小さく呟くと煙草をくわえ、火を付けた

武装戦線（後書き）

新しいナンバーズのネタがありましたら、感想に書いていただくとありがたいです。別に普通の感想を書いていただいてもけっこうですが…

兵種紹介（前書き）

兵種紹介です。また増えていく予定です

兵種紹介

アルティアスの兵士は一部を除き、銃型デバイスを使用する

機甲兵：大型の銃型デバイスと銃型デバイスを積んだ車両を使う兵で、鉄甲兵には劣るが、それなりと堅いバリアジャケットを着ている
鉄甲兵：大型の盾と近接型デバイスを使う兵で、盾と彼らが着るバリアジャケットは並の魔導師では傷すらつかない

空爆兵：空中からの攻撃で地上の敵を一掃する兵で、破壊力に優れた銃型デバイスを使用する

空戦兵：空爆兵を護衛又は空からの偵察を行う兵で、破壊力よりも命中力に優れた銃型デバイスを使用する

駆逐兵：敵陣を攪乱や情報収集をする兵で、小銃型デバイスを使用する

砲撃兵：砲台型デバイスを使って味方を援護をする後方支援兵で、一応自衛の為の小型銃型デバイスを持っている

兵種紹介（後書き）

感想はいつも待っております。

その内、なのは以外のキャラをゲストで出す予定です

管理局のエース、大地に立つ（前書き）

お久しぶりです。なかなか筆が進まないし、駄文ばかりですがよろしく願います

管理局のエース、大地に立つ

なのは「やつと着いたね」

フェイト「うんそうだね。ティアナ、シャーリー大丈夫？」

ティアナ「私達は大丈夫です」

シャーリー「はやてさんは大丈夫ですか？」

はやて「私も大丈夫や。さてチャチャと司令部に行こうかいな」

なのは「そうだね」

???「よく来ていただきました。私はここの司令官のジョン・ド
ー三佐です」

眼鏡をかけた男が敬礼をしながら挨拶をした

はやて「よろしゅうな。ところで状況はどんな感じや？」

ジョン「あまり芳しくない状況ですね…幾つかの拠点は落とされ、
防衛していた大半の局員達は、戦闘神経症になっていきますからね…」

ティアナ「あの…私はここの人はわからないのですが、そんなに戦
闘神経症になるのですか？」

ジョン「普通ならあまり有り得ないな…だが…」

兵士「失礼します！ロイ元帥閣下」

ロイ「閣下は止めてくれ…どうした？」

兵士「ルーデル大佐率い空爆隊がまた拠点を落としました！」

ロイ「報告ご苦労…済まないが、ルーデル大佐を呼んできてはもら
えないか？」

兵士「了解です」

???「ルーデル・ハンスラ只今到着しました！」

敬礼をしながら一人の男が入ってきた

ロイ「ルーデルご苦労…ガーデルマンは？」

ルーデル「ガードルマンは兵士と共に、武装のメンテナンスに行っている」

ロイ「ルーデルはしないのか？」

ルーデル「何を言っている！私のはいつでも出撃できるように、フルメンテだ！」

ロイ「そうだな…失礼。相変わらずの戦い方だな…」

ルーデル「敵が居るのだから夜だろうと関係ない！」

ロイ「まあ…だからと言って、朝起きたら、体操をして爆撃、朝食を食べて爆撃、昼を食べて爆撃、三時のお茶を吞んで爆撃、夕飯を食べて爆撃だろ？」

ルーデル「全てに牛乳を吞んでからとついていないぞ」

ロイ「…まとまった休みを取ろうとする気はないのか？」

ルーデル「敵が居る以上、殲滅するのが私の仕事だ。それからだゆつくりまとまって休むのは」

ロイ「了解だ…色々とあるのに済まなかったな」

ルーデル「構わないさ」

そう言ってルーデルは部屋から出て行った

ジョン「…と言ったように夜間だろうと関係なく襲ってくるから…」
はやて「そりゃー戦闘神経症になってもおかしくないな…」

なのは「私もワーカホリックと言われるけど、そこまでは…」
なのは苦笑いをして呟いた

管理局のエース、大地に立つ（後書き）

ローラン「如何でしたか？楽しんでもらえましたか？」

ロイ「…ところで作者」

ローラン「なんだ？」

ロイ「ヒロインはどうするつもりだ？リンシアにするつもりなのか？」

ローラン「まだ迷っていますね…ナンバーズにするか、マテリアルにするか、それともなのは達の誰かにするか…」

ロイ「さつさと決めないと修正がきかくなるぞ」

ローラン「まあ…ぶっちゃけて言えば、本当に見てもらっているのか、心配になるけどな…感想はないし、お気に入りはい少ないし」

ロイ「信じるしかあるまい。そう思っているのなら、腕を上げ、こまめに更新しろ」

ローラン「うっ…努力します…」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6637x/>

リリカルなのは・銀の狐

2011年11月17日18時26分発行